



## ●「小坂で英語を！」を合い言葉に英語集会を実施しました

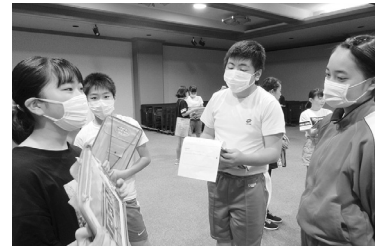
本校の学校経営を進める中で6つの経営戦略という重点事項があります。その一つとして「未来づくり」を掲げています。「未来づくり」では、英語教育やふるさと・キャリア教育を充実させることで、小坂町のグローバル化や、未来の小坂町を支える人材を育成することを目的としています。

7月1日に、小学3・4年生と中学3年生、小学5年生と中学1年生、小学6年生と中学2年生で、「小坂で英語を！」を合い言葉に英語集会を行いました。

小学4年生の目時悠海さんの振り返りを紹介します。

より仲よくなったことと、中学3年生は声が良かったし、みんなをまとめられているところがよかったです。ホップ学団のリーダーとして生かしたいです。小学3年生は笑顔がよかったです。このことをまねできるようにしたいです。

英語集会は、年に3回実施していく予定となっています。



〈小学6年生と中学2年生〉

## ●活躍が目立った鹿角中学校総合体育大会

7月11日に鹿角中学校総合体育大会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で各種大会が中止となりましたが、「生徒たちの目標を奪うわけにはいかない」と鹿角中体連が日程を2週間延期して開催することを決定し、無事に大会を終えることができました。

今大会は、卓球男子団体やバスケットボール女子で優勝するなど、本校選手の活躍が目立った大会となりました。

上位大会がないので、3年生にとっては最後の大会でしたが、思い出に残る大会になりました。



〈決勝戦 対花輪中〉

お問い合わせ先 小坂小学校 (TEL29-2422) 小坂中学校 (TEL29-3232)



いんた=なしよなる

Volume 28

### 国際コーナー

### アメリカ：Reconstruction (再建)

1865年、死亡者60万人以上の南北戦争は終わりに近づきました。勝利を目前にしたリンカーン大統領は連邦の再建に目を向けました。穏健派なリンカーン大統領は過度に懲罰的な要件を避けたく、奴隷州に次の2つを求めました。一つは黒人公民権を守る法律を作ること、一つは州民の1割以上が連邦に忠誠を誓うことでした。奴隷制の連合国の政治家も同様、忠誠を誓えば恩赦を与えるとしました。奴隷所有者から押収された土地を(多くの場合は解放奴隷に)売る準備もしました。

しかしその4月、リンカーン大統領は連合国の支持者に暗殺され、後任のジョンソン大統領は年末までに再建を完了させようとしていました。奴隷州の無条件の連邦への戻りを許したうえ、その政治家や指揮官全員に恩赦を与えて、土地も所有者に戻しました。ジョンソン政権の下で白人主義団体による黒人とその支持者の殺害や黒人投票者の抑制が横行しました。さらに、奴隷州で黒人の移動、投票権、被選挙権、事業所有権などを制限する法律が多く作られました。

大半が急進派だった議会はこれに怒って、ジョンソン大統領の政策を覆しました。元連合国政治家を議会から追い出して、白人主義団体を抑えると再建を監督するため奴隷州に陸軍を派遣しました。1868年に着任した黒人公民権支持者のグラント大統領は白人主義団体をさらに厳しく抑えましたが、景気後退と政権内の汚職によって、グラント大統領と再建に対する国民の支持がだんだん薄まりました。白人主義団体が復活して、最終的に、1877年にグラント大統領の後任は再建を止めました。

12年間続いていた再建は結局のところ失敗で終わりました。戦争で自由を手に入れた黒人は変わらずに抑圧されました。白人主義者が公職に就いて、黒人公民権を抑えるための法律を作りながら歴史を書き換えようとしてきました。奴隷州の脱退理由を奴隷制ではなく自由を守るためと主張し、連合国の指揮官を裏切り者から勇者に塗り替えようとしてきました。土地や事業所有権を拒否された解放黒人は貧困から脱出できないままでした。

一世紀半後の今も、この失敗がまだ響いています。黒人の平均財産は白人の1割しかありません。人生で投獄される率は白人男性だと17分の1が、黒人男性だと3分の1です。残された母親は一人で稼ごと子育てを任せられ、子供は父親のいない子供時代を過ごします。再建後の法律で黒人が住むことを許されたのは都市の一番貧困な区で、現在の黒人の半分はまだその状況から脱出できずにいます。(比べて、白人は12%です)。同時にアメリカ中、首都にも、連邦への誓約を破って奴隷制を守るために自分の国民を殺した連合国の政治家や指揮官を賛美する記念碑が設置されています。アメリカは今でもこのひどい矛盾に悩まされています。